

なごや

学生社会課題解決

プログラム

**Spark!**

ミライへのヒント。

活動レポ  
ート

活動期間 令和5年8月～令和6年2月

## 学生と名古屋市が協働で取り組んだ課題

**課題1 人にやさしいまち、名古屋をめざそう！**  
 ～アジア競技大会・アジアパラ競技大会に向けたまちづくり～  
 (担当課：総務局アジア・アジアパラ競技大会推進室)

**課題2 伝えたい! 使ってほしい! 安心・安全でおいしい名古屋の水道水**  
 ～安心・安全でおいしい水道水の魅力発信～  
 (担当課：上下水道局経営企画課)

**課題3 立ち止まってほしい…エスカレーター大作戦!**  
 ～エスカレーターの安全利用促進に向けた啓発～  
 (担当課：スポーツ市民局消費生活課)

**課題4 生涯学習センターを多様な世代がつながる拠点にしたい!**  
 ～生涯学習センターに若い世代を取り込む工夫～  
 (担当課：教育委員会事務局生涯学習課)

### 「学生による社会課題解決プログラム」って?

名古屋市が抱える社会課題・行政課題の解決に向けて、公募により結成された学生のプロジェクトチームが市の関係部署と連携しながら活動を行うプログラム。各チームの活動にはコーディネーターがサポートに入り、大学の枠を超えたメンバーがアイデアを出し合いながら、チームで課題解決に向け取り組みました。

#### ○活動期間

令和5年8月～令和6年2月

#### ○参加人数

40名 (1年:5名、2年:14名、3年:17名、4年:3名、博士課程:1名)



## プログラムの歩み

月	活動内容
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者募集 (6/12～7/11)</li> <li>○キックオフイベント(8/10)</li> <li>○活動開始</li> </ul> 
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキル習得セミナー①(8/31) (バックカスティング)</li> <li>・ドライブイベント (9/7)</li> </ul> 
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム交流イベント① (10/19) (フィードバック交流会)</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別セミナー (11/9) (TikTok活用術)</li> <li>・スキル習得セミナー② (11/13) (相手を理解するための質問方法)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションセミナー (12/12)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のまとめ</li> </ul> 
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成果報告イベント(2/17)</li> </ul> 

**テーマ** 人にやさしいまち、名古屋をめざそう！

**担当課** 総務局アジア・アジアパラ競技大会推進室

## 現状・背景

3年後の2026年、愛知・名古屋でアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催され、多くの人々が名古屋を訪れます。皆さんは、まちで助けを必要としている人を見かけた時、積極的に声掛けができていますか？名古屋を訪れる人が安心して過ごせるように、皆が助け合いの気持ちを行動に移したくなる方法を一緒に考えましょう。

## 担当チーム

**チーム名**  
Step Action

**メンバー**

5名



## チーム名の由来

人に優しいまちづくりのために次なる一步を踏み出し、行動を起こす意識をもつ！という想いが込められています

## 活動の経過

- ✓ 人にやさしいまちづくりのために助けを必要としている人は誰なのか？何をすれば当事者意識が生まれるのか？を検討
- ✓ パラスポーツにより障がい者体験ができるイベントを企画し、実施
- ✓ イベント集客の大変さからターゲットとなる2030年までにどのような行動が必要なのかを再検討

## 提案の骨子

- ① 人にやさしいまちにするには何が必要なのかを、メンバーの経験から仮説を立案
- ② 仮説検証のためのイベントを企画し実施
- ③ イベントの準備から得た気付きと、イベント実施で検証できた事から未来に向けての行動を提案

## 活動の様子



**テーマ** 人にやさしいまち、名古屋をめざそう！

**担当課** 総務局アジア・アジアパラ競技大会推進室

## 現状・背景

3年後の2026年、愛知・名古屋でアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催され、多くの方が名古屋を訪れます。皆さんは、まちで助けを必要としている人を見かけた時、積極的に声掛けができていますか？名古屋を訪れる人が安心して過ごせるように、皆が助け合いの気持ちを実行に移したくなる方法を一緒に考えましょう。

## 担当チーム

**チーム名**  
STUアジアンピーポー

**メンバー**  
5名



## チーム名の由来

メンバーの苗字の頭文字をアルファベット順に並べ、課題の関連単語と繋げてチーム名にしました

## 活動の経過

- ✓ やさしいまちづくりのために、声掛けができる人を増やす必要性に着目
- ✓ 困っている外国人の方に気軽に声掛けができる成功体験ができるイベントを企画・実施
- ✓ イベント内容の有効性が確認できたので、声掛けができる人を増やしていく方法を再検討

## 提案の骨子

- ① 助けあいが当たり前になるために必要な行動を整理
- ② 成功体験が声掛けのハードルを下げるのでは、という仮説を立て、イベント実施を通じてその仮説を検証
- ③ イベント実施から得た学びと参加者の声から未来に向けた取り組みを提案

## 活動の様子



**テーマ** 伝えたい！使ってほしい！安心・安全でおいしい名古屋の水道水

**担当課** 上下水道局経営企画課

## 現状・背景

普段何気なく使っている水道水。名古屋の水道水は安心・安全でおいしいという評価をいただいておりますが、その魅力をもっと皆さんに伝えたい！おいしい水道水をお届けする取組みをまとめた計画「日本一安心・安全でおいしい水道水プロジェクト2023」を、水道水を使う皆さんにより一層伝わる計画とし、名古屋の水道水のおいしさをまちの魅力として発信する方法を考えます。

## 担当チーム

**チーム名**

水しぶ木

**メンバー**

5名



## チーム名の由来

おいしい水は良質な木が上流にあるからこそなので、水と木を強調し連想できるようにという思いが込められています

## 活動の経過

- ✓ Tiktokセミナーからフォロワーの数に限らず動画を拡散できる仕組みを知り、若者向けショート動画の作成をすることに
- ✓ 「名古屋の美味しい水道水」→「喫茶文化などの食文化」というロジックから、軟水と硬水の違いに着目し、それを理解してもらう料理教室イベントの開催を検討
- ✓ イベントは開催せず、軟水と硬水の違いを紅茶などでわかる動画を作成。その他、浄水場職員へのインタビューを動画にするなど、ショート動画作成からおいしい水を広める展開に

## 提案の骨子

- ① 初期のアイデアの共有や情報収集方法など、実施アイデアに至るまでの経緯
- ② 水道水についての動画を撮影・制作・配信
- ③ 動画制作・配信を通じて得た気づきと、今後に向けた改善点等の提案

## 活動の様子



**テーマ** 伝えたい！使ってほしい！安心・安全でおいしい名古屋の水道水

**担当課** 上下水道局経営企画課

## 現状・背景

普段何気なく使っている水道水。名古屋の水道水は安心・安全でおいしいという評価をいただいておりますが、その魅力をもっと皆さんに伝えたい！おいしい水道水をお届けする取組みをまとめた計画「日本一安心・安全でおいしい水道水プロジェクト2023」を、水道水を使う皆さんにより一層伝わる計画とし、名古屋の水道水のおいしさをまちの魅力として発信する方法を考えます。

## 担当チーム

**チーム名**  
ウォーターラボ

**メンバー**  
5名



## チーム名の由来

水をより知る、研究する (laboratory) という意味でウォーターラボと名付けました

## 活動の経過

- ✓ おいしい水道水を多くの人に知ってもらうために様々な案が出たが、イベントを開催して集客のためのポスターを作成をすることに
- ✓ 東山動植物園とのコラボイベントを企画・提案したが諸事情により断念。しかし、企画から得たヒントからスゴロク制作という案に至る
- ✓ ポスターを作成。QRコードをつけて、興味を持った人が動画視聴へコンバージョンしてもらう導線を考え、動画視聴から「名古屋のおいしい水道水」を知ってもらう取組みに展開

## 提案の骨子

- ① 鍋屋上野浄水場の見学などプログラム初期の活動を通じて出たアイデアについて整理
- ② 発信方法の提案  
「啓発ポスターの作成」と「オリジナルスゴロクの制作」
- ③ ポスター掲示や児童館でのスゴロク体験など、実施してみても得られた気づきと今後に向けた提案

## 活動の様子



テーマ 立ち止まってほしい・・・エスカレーター大作戦!

担当課 スポーツ市民局消費生活課

## 現状・背景

エスカレーターに乗っている時に、歩いてくる人とぶつかって危ない思いをしたことはありませんか? 名古屋市では今年、「エスカレーターは立ち止まって利用する」ことを義務付ける条例ができました。誰もが安心してエスカレーターを利用できるよう、行動変容につながるアイデアを一緒に考えましょう!

## 担当チーム

チーム名

COMMIT

メンバー

伊藤 颯志、堀内 絵梨花、栗山 紗裕香、  
渡邊 旭希、中島 光一朗



## チーム名の由来

みんなの大切にしている事がcommitするように、またコミュニケーションを大切にすると、という2つの想いが込められています

## 活動の経過

- ✓ 10月1日の条例施行に合わせて金山駅で行われた名古屋市主催の啓発イベントで社会課題への呼びかけ活動への参加からスタート
- ✓ 具体的な対策をいくつか考えつつも、実際の実施に向けてのハードルも多く企画案に戸惑いながら試行錯誤の継続検討
- ✓ エスカレーターに立ち止まるためにできることと、左右一緒に乗るためにできることを考える

## 提案の骨子

- ① エスカレーターに立ち止まってもらうためには?
- ② ターゲットと訴求ポイントを設定、ポスターと床面ステッカーを制作
- ③ 制作を通じて得られた気づきと、効果を持続させるための提案



## 活動の様子



テーマ 立ち止まってほしい・・・エスカレーター大作戦!

担当課 スポーツ市民局消費生活課

現状・背景

エスカレーターに乗っている時に、歩いてくる人とぶつかって危ない思いをしたことはありませんか? 名古屋市では今年、「エスカレーターは立ち止まって利用する」ことを義務付ける条例ができました。誰もが安心してエスカレーターを利用できるよう、行動変容につながるアイデアを一緒に考えましょう!

担当チーム

チーム名

new view

メンバー

5名



チーム名の由来

初めて出会うメンバーが集まり、新しい視点を大切にして活動していきたいという思いが込められています

活動の経過

- ✓ 「左側に立って右側空けてないと叱られそう!」「自分自身もエスカレーターの右側に立ってませんでした。」と話しながらも課題に向き合い始めた
- ✓ 10月1日の条例施行に合わせて金山駅で行われた名古屋市主催の啓発イベントへの参加を機に、現実の状況を把握するために、複数の駅で現地確認をメンバーが交代で調査
- ✓ 禁止することで規制していくのか? 立ち止まりたい! 右側にも立とう! と思うにはどうしたらよいか? と人の行動に寄り添いつつ検討を深める

提案の骨子

- ① 行動変容につながるアイデアを得るため、現状の課題とその改善策について検討
- ② 習慣化・メリット・危険性の周知を提案の柱に、アンケート調査や啓発物の制作等を実施
- ③ 実施内容についての考察と、今後に向けた新たな仮説の提示



活動の様子



**テーマ** 生涯学習センターを多様な世代がつながる拠点にしたい!

**担当課** 教育委員会事務局生涯学習課



現状・背景

「生涯学習センター」と聞くと、どんな場所を思い浮かべますか？現在の生涯学習センターの利用者割合の大半は高齢者が占めています。そんな生涯学習センターに多様な世代が集い、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の拠点となるような工夫やアイデアを、若い世代の皆さんと一緒に探ります。

担当チーム

**チーム名**

**Ambitious NAGOYA !**

**メンバー**

5名

**チーム名の由来**

「志を高く持ち、困難な課題にも取り組んでいきたい！」という想いが込められています

活動の経過

- ✓ 生涯学習センターは、若者の利用が少ないという現状から、若者をどうしたら呼び込めるのかを検討
- ✓ 市民が生涯学習センターの認識や生涯学習センターに求めることを、アンケートを作成し、調査を実施
- ✓ アンケートを集計し、その結果から、今後生涯学習センターに若者をどうしたら呼び込めるのかを考察

提案の骨子

- ① 市民が生涯学習センターの認識や生涯学習センターに求めることなどについて、アンケート調査を実施
- ② アンケート結果から、継続して利用してもらえるよう「気軽にいける場所にしたい」という考察
- ③ SNSの開設や学生によるSNS運営、各講座の申し込みのハードルを下げ、申し込みしやすくなるよう工夫することを提案

活動の様子



**テーマ** 生涯学習センターを多様な世代がつながる拠点にしたい!

**担当課** 教育委員会事務局生涯学習課

現状・背景

「生涯学習センター」と聞くと、どんな場所を思い浮かべますか？現在の生涯学習センターの利用者割合の大半は高齢者が占めています。そんな生涯学習センターに多様な世代が集い、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の拠点となるような工夫やアイデアを、若い世代の皆さんと一緒に探ります。

担当チーム

**チーム名**

幸（しゃち）

**メンバー**

5名



**チーム名の由来**

メンバー全員が大切にしている「幸せでいること」、そして名古屋らしさを組み合わせると「幸（しゃち）」と名付けました

活動の経過

- ✓ 生涯学習センターの状況を把握するために、可能な限り多くの生涯学習センターを訪問
- ✓ 生涯学習センターで多世代交流が起きるとどうなるのかを考え、その未来は「地域活性化」している地域があると仮定した。課題の本質的な部分を見出し、改めてターゲットを絞り、生涯学習センターに行きインタビューなどを実施
- ✓ インタビューしたことでの気づきや、自分たちの活動の振り返りをし、生涯学習センターを「みんなの学校」とするという結論にたどり着く

提案の骨子

- ① 生涯学習センターを知るためにツアーを開催。13か所を訪問しインタビュー等を行い得られた気づきについて
- ② 提案のコンセプト  
生涯学習センターを「みんなの学校」にしたい！
- ③ 「みんなの学校」とは、どんな目的をもっている人でも来れる場所であり、誰もが来やすい場所。今すでにある生涯学習センターの強みも活かしながら、多世代で交流できる場所になることで「生涯学習」の幅を広げることができる

活動の様子

